



# With/Afterコロナ時代の グローバル・英語教育

関西国際大学 客員教授  
神戸山手女子中学校高等学校 校長 平井正朗



コロナ禍を契機に、新しい生活様式づくりの一環として、渡航する意義や目的が問い直され、留学プログラムの再構築が求められています。例えば、校内と地域の資源を活用した低コストで全生徒を対象に実施できるプログラム、対面と遠隔でのコミュニケーションを融合したプログラム等々がその代表。留学制度についても学びの成果がより高められるよう、期間を短縮し、前後に遠隔授業を組み込み、グローバル化に結びつけるといったことが考えられます。

海外の大学でも移動に制限があるため、世界中から学生を集めることはできにくくなっています。そのため、留学生の多くが受講する英語授業をオンラインで行い、学位によっては1月に入学を実施する選択肢を準備し始めています。大学では、国内にいながら海外の大学生と共同で学ぶオンライン国際交流学習 COIL (Collaborative Online International Learning) が広がりつつあります。これは、元々、ニューヨーク州立大学で、留学できない学生のために、コストを下げずに国際交流する機会を提供することが目的で始められたもの。様々な工夫がなされているのです。

現在、日本の中高では、授業をライブ配信して生徒が同時に学ぶ双方向型の方法(同期型オンライン学習)とEdTech教材に代表される事前に準備されたもので個別最適化の方法(非同同期型オンライン学習)が展開されています。生徒側には学習習慣の定着とモチベーションの維持、教師側にはICT機器へ習熟とファシリテーターとしての役割といった課題があります。

グローバル化が進展する中、これまで多くの高校や大学は、政府の後押しもあり、短期・長期留学、語学研修、海外インターンシップなど、

様々なプログラムを実施してきました。しかし、コロナ禍によって事態は一変、留学中の学生の大半は帰国し、予定されていた留学プログラムも中止せざるを得なくなりました。

早く答えを出すというのではなく、自ら問い、考え、解決策を求め、コミュニケーション力を駆使、新しい価値を見出すという方向性です。

欧米では、コロナ禍以前から、長距離移動に伴う高い旅費と航空機から排出されるCO<sub>2</sub>の環境への負荷が指摘され、問題視されていたそうです。今風に言えば、「3密」を回避し、ICTを活用したバーチャルな交流やオンライン会議にリセットすべきだということになります。つまり、内なる交流を具体化することによって、低コストで環境にやさしく、より多くの学生を取り込んだ教育実践が可能になるという主張に結びついています。

グローバル教育を進める上で、忘れてはならないのが日本の伝統文化や歴史の発信。日本には世界に誇れる文化がたくさんあります。例えば、劇的に変化する外部環境を前にして、企業30年説が囁かれる中、日本は長寿企業大国と言われ、100年以上の長寿企業数世界一です。持続可能性(sustainability)という点で言えば、日本企業の互助精神や家族主義的な経営精神が世界から評価されているのもまた事実。自分の身の回りに目をやり、日本文化とは何か考えてみてほしいものです。

無人走行車が数千キロを走破、コンピュータが人の顔を認識、アメリカのクイズ番組の最強チャンピオンに勝つ時代です。グローバル化やDX化は加速し、学校で習った知識だけでは社会で通用する力にはなりません。学ぶ内容だけでなく、知識の活用、つまり、何ができるようになるかが問われています。新しい学びのスタイルは、多くの知識を暗記

現代社会は、科学技術の進展や交通手段の発達によって移動が容易になったこと、世界市場が拡大したことなどによって、ヒト・モノ・カネの流動が活性化し、様々な分野でポータルレス化が加速しています。これがいわゆるグローバル化と言われる所以。それと共に、私たちがグローバル・シチズン、つまり、「地球

市民」としての意識を共有、他者と協働しながら一人ひとりの幸福を追求しつつ、社会貢献していかなければなりません。その土台を創るというのがグローバル教育の考え方です。

これからは世界が若者の舞台。これまで日本でグローバル教育と言えば、海外留学と受け入れに限られてきましたが、コストパフォーマンスにも配慮しつつ、国内にいながら海外の大学の授業を受けられるような仕組みづくりを検討していかなければなりません。

グローバル教育で重要なのが国際的通用性。これは内容、教授力、学力、言語運用力のことであり、日本の高等教育に対する海外からの信頼性を左右する要件となっています。

遠隔授業については、単位数上限の規制緩和など、より柔軟な授業設計が必要とされています。パンデミックがもたらした不連続な変化という困難に立ち向かう時代の担い手としての育成も踏まえ、教育実践に取り組んでいきたいと思っています。

英文法嫌いの生徒が  
みるみる変わる!

## 平井校長の 英語の仕組み 探究講座

神戸山手女子中学校高等学校校長・関西国際大学客員教授  
平井正朗 著  
HIRAI Masahiko

高校生・教育関係者から大人気の  
英文法ブログを書籍化!

祝! 60万  
PV達成!

卒業生からの声! 文法を根底から理解でき、4技能をバランスよく教えていただいた。あの充実感をもう一度! (高校英語教員)

三省堂